

「武蔵野國多摩郡奥多摩山紫水明圖」 画・向原 常美 <四曲一双の半双絵>

奥多摩観光協会も一般社団法人化され3年が経ちました。前鈴木会長から現原島会長に代わり1年が過ぎようとしています。当観光協会としての事業は、

1. 観光に関する調査研究及び観光振興の提言に関する事
2. 観光に関する情報の収集及び発信に関する事
3. 観光施設等の管理運営に関する事
4. 観光資源の保全、開発及び利用の促進に関する事
5. 観光に関するイベントの企画立案及び開催に関する事
6. 観光宣伝及び観光客の誘致に関する事
7. 特産品・土産品のPR及び開発、販売に関する事
8. 都、町並びに周辺地域の観光行政への協力に関する事
9. 観光関連事業者の指導及び育成に関する事
10. その他当法人の目的達成のために必要な事業

とあります。とりわけ観光案内所の利用者数は1月末現在で、一昨年度の45,617名を大きく上回り昨年度は61,784名となりました。これは奥多摩の観光の復活の第一歩と言えるのではないのでしょうか。ただ、まだ一歩です。個人商店、個人企業、民間はまだまだ厳しい状況が続いています。とある方がおっしゃるには、お客様が少ないのは企業努力が足りないからだ…と言いますが、本当にそれだけでしょうか？例えば奥多摩を訪れるお客様は年間おおよそ10万人とします。その内の3%が自社のお客様、その3%を3.5%にするのは企業努力ですが、年間の訪町人数が20万人になれば、その3%は6%の意味を持ちます。

奥多摩に来てくださるお客様の数を増やすことこそ観光協会としての責任と私は考えております。

そのお客様に来ていただく為に何をしたらいいのか？どうしたらいいのか？皆様に考えていただきたい「家の事で手いっぱいだよ〜」と言われる方、当然です。自分の家の事だけ考えたいのは当たり前のことです。ただ、それでもこんな事やってみたらどうだろう、個人じゃ出来ないけど皆となら…と思うこともあるでしょう。

私は奥多摩に氷瀑が作れないだろうか…とか、今行っている宿泊事業を小河内の奥集落で出来ないだろうか…とか、仲間と話し合うこともあります。

皆さんも、「こんな事、すればいいのに」「あんなこと、なんでやらないの」…とか、色々あると思います。ちょっとした事でいいのです。身近にあるのに知られていない奥多摩の観光資源を掘り起こしたいのです。その受け皿としても観光協会があるのです。

どうか、町内外の忌憚のないご意見、ご提案を観光協会までお願いします。

一般社団法人奥多摩観光協会 副会長 若林 哲也

～とっておきの山歩きガイド～

山里歩き

「奥多摩聖徳太子めぐり」

奥多摩には、聖徳太子を祀った建物や石造物がいくつもあります。聖徳太子といえば、“旧一万円札”を思い浮かべる方もあろうかと思えます。すべてをめぐると、なんと80,000円?にもなるという御利益をあなたは信じますか。(旧札でも使えます)

名称、所在地などを一覧表で紹介しておきます。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 自然石「聖徳太子」 | 川井地区・丹縄 |
| 2. 石造「聖徳太子像」 | 小丹波地区「旧都道際」 |
| 3. 自然石「聖徳大皇」 | 棚沢地区・麦沢入 |
| 4. 自然石「聖太子」 | 水と緑のふれあい館敷地内 |
| 5. 石造「聖徳太尊」 | 同上 元氷川小前にあった |
| 6. 自然石「太子供養」 | 川野地区・浄光院境内 |
| 7. 角柱自然石「聖太子」 | 岫沢・山のふるさと村 |
| 8. 建造物「太子堂」 | 小留浦地区 都指定文化財 |

1～7は、どれも自然石で2を除くとすべて文字塔です。まずは、なぜ聖徳太子が奥多摩に?の疑問から解き明かしておきます。奥多摩町誌資料集『奥多摩町の民俗』の太子講の欄に「太子の美術工芸の徳を敬慕する工匠たちによって行われる」とあり、主として大工、左官、建具、木挽、杣等諸職の人たちの講であると記されています。

ここで、講中の人々がかかわったものをいくつかご紹介しますので、折りをみてお訪ねください。

2. 石造「聖徳太子像」は、古里駅～寸庭橋にあり、町内で唯一太子像が刻まれた立派なものです。
7. 山のふるさと村の旧賀茂神社の手前にある「聖太子」は、岫沢の谷底から藤蔓に女の髪の毛を織り込んで村民総出で引っ張り上げたという大石で深く彫り込んだ文字にはお酒が一升入るそうです。
8. 太子堂の御本尊は、もちろん聖徳太子。縁の下にある回り舞台装置が分かりにくく、都の指定文化財としてはいささか寂しげ。

ここまで来たついでに、もうひと頑張りして「姫石観音」までの急登に挑戦し、「なあるほど」と感心していただければ本望です。(岡崎 学)

※参考資料：奥多摩山里歩き絵図

高水三山・畠山重忠と青渭神社

平成 27 年 7 月 8 日、曇りのち小雨。ガイド 6 名、参加者 29 名、JR 軍畑駅を 8 時 40 分出発。

改札口を出て左側に向かい、踏切を渡って下り道へ入る。旧鎌倉街道を秩父方面へ。途中、高水山入口の標識を見ながら、平溝川沿いに歩を進めること 30 分。道路右側に、昔雨乞いをした記録もある高源寺で小休止して、むし暑さ対策のため衣類の調節をする。しばらく行って人家が途切れた後、現れる階段を登りつめるとえん堤がある。登山道は人工林へ。この辺りから急登。開けて来た所、五・六合目標識で休憩の後、また人工林帯へ。ジグザグ道を登りつめて、右方向へ行くと、その昔源氏の将、畠山重忠も深く信心した不動尊や鐘楼がある常福院がある。平成 2 年、皇太子殿下が訪れたとも。20 分位休憩をとる。左方に登りつめると高水山 759m。南側はあまり展望が良くなく、立ち寄り時間はそこそこにして、少し進むと朽ちた木についたシイタケのパケモノの様なきのこに出会う。全員が食べられそうなのではと木を見上げたが、地元ではクマンベラという猛毒のツキヨタケであった。しばらく尾根伝いにアップダウンを続けた後、山頂手前の少々の岩登りを過ぎると岩茸石山 793m でブナやイヌブナが多い。高水三山で景色が一番良いとされているが、この日は小雨が降り出し始めたなかで昼食をとり、目指すは三山最後の惣岳山 756m。山頂の手前では巻道を通らず、直に岩山を登りつめると、植林がおい茂る広場に到着。フェンスに囲まれた奥社の青渭神社は、大国主命を祀る延喜式の古社である。ここで小休止後下山を開始。しばらく下った、巻道の分岐の所にある真名井の井戸は、昔は水場とか。ここを通り過ぎると今度は御神木の杉が見え始める。山の神らしく大木だ。しばらく下ると鉄塔が見え、さらに下って分岐を左へ折れる。途中、足場が掘り下がっていて悪い所があり、十分注意しながら林道へ出る。人家が見え、しばらく歩き青渭神社拜殿を左に見て沢井駅方面へ向う。集落や景色を堪能して無事終了した。

参考タイム：軍畑駅 8：40～高源寺 9：10～常福院 10：40 (20 分休み)～高水山 11：00～岩茸石山 11：30 (昼食) 12：10 発～惣岳山 13：50～林道 14：10～沢井駅 14：50

(宇津木 隆)

初夏の奥多摩山歩き ～ワンポイントアドバイス～

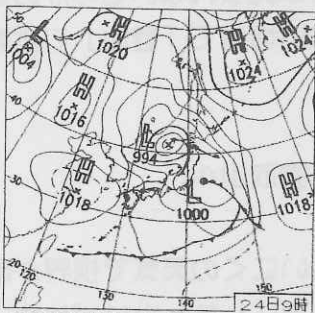
今年も奥多摩湖の桜が満開となり、山笑う季節がやってきた。ツツジの開花ひとつをとってみても、里のミツバツツジから深山に咲くヤマツツジ、崖を好む珍しいヒカゲツツジ、アカヤシオやシロヤシオなど開花前線が大急ぎで山々を駆け登っている。

カラフルな装いで駅に降り立つ登山者の姿を見るにつけ、今日も一日良い天気であることを祈りたい。

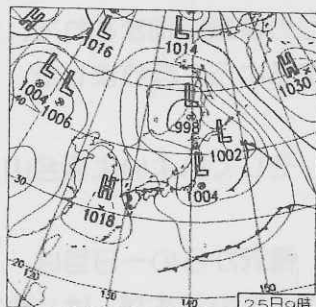
春から初夏にかけての登山で特に留意したい寒冷低気圧とそれに伴う気象災害を取り上げてみたい。

今からちょうど10年前のゴールデンウィーク直前本仁田山に登った登山者が落雷事故にあった。

(気象庁/日々の天気図より抜粋)



24日(月)黄砂 沖縄～東北まで西日本～中部地方は終日晴れ。南西諸島と北日本は雨や曇り。その他は晴れや曇りだが、夕方関東南部で雷雨。さいたま市35mm/1h。盛岡市でウメより先にソメイヨシノ開花。



25日(火)関東でひょう 東日本上空を強い寒気が通過。北陸、関東甲信で雷雨となり、前橋市、宇都宮市、埼玉県熊谷市で7～12mmのひょうを観測。前日に続き、沖縄～北海道南部で黄砂。

左は平成18年4月24日(月)9時の天気図で、この日奥多摩の天気は快晴、昼間の気温は21℃までも上がっていた。また事故のあった当日の25日(火)も朝は晴れ間もあり、一見登山日和と目された。

ところが安寺沢の登山口を登り始めて間もない午前9時半頃天気は急変、標高920m付近の大休場尾根で10時半過ぎ、雷に打たれ心肺停止状態となった。

世界に名をはせた一流の登山者がなぜ奥多摩駅のすぐ裏で命をおとさねばならなかったのだろう。

上図右の天気図脚注にもあるように当日の関東地方では、各地で7～12mmの降雪を伴う落雷があるなど大きな被害がもたされている。

登山は最も厳しいスポーツで非日常への挑戦でもある。自然は時として我々人間に牙をむく。

自衛手段として前日から発表されている気象情報に留意すると同時に天気図を読み、当日は観天望気とレーダーによる雨雲の様子や東京電力の雷情報等をこまめにチェックし、状況によっては登山を中止する勇気も必要である。より安全で楽しい山登りを続けられたい。

(富士 光男)

山岳遭難救助事例

昔の人は家を建てる時、まず平らな土地、日当たりのいい場所、水が近くに出ているところに家を建てました。奥多摩で縄文土器や石器が発掘された場所は、海沢、登計ヶ原いずれも平らで、近くに沢があります。その沢から桶で水を家まで運んで生活していました。その後、竹の管、塩ビの管で家まで引き、今でもそのような水道を大切に守っている集落が各地にあります。今回はそのような水源を大切に守っている人によって命を助けられた事例です。

12月3日、Aさんは山の水がとまっていることに気づきました。町営の水道が来ているので急いで見に行かなくてもいいのですが、たまたま前日に、その水を使わせてほしいと、工事の人に言われ気になって「水呼びに」行きました。そしてけがをした男性を発見、男性は無時救助されました。

77歳男性、11月28日奥多摩倉戸山(1169m)方面へ行くと家族に言い家をでた。しかし翌日になっても戻らず、家族が警察に連絡した。この男性、倉戸山には何回も登っており慣れてはいた。しかし、悠々自適の自由な生活も必ずしも計画通りの行動ではなく、気が向くままに山に登っていた。

そのため家族も行き先に確信を持てなかった。

警察は本当に奥多摩に来たのかの確認を奥多摩駅及び駅周辺で調査したが、その形跡は見つからなかった。そのためそれ以上の捜索は行わなかった。

その男性は26日奥多摩駅からバスで倉戸口へ行き倉戸山に登った。下りは倉戸山から女の湯(鶴の湯温泉源泉)方面に下山した。途中道が落ち葉でわからなくなり、左方面に行ってしまった。(以下筆者予想)倉戸山山頂から女の湯方面に行くと、尾根道が続き広くて歩きやすい。落ち葉が深いが迷うような道ではない。800m付近で直進は深い崖の上の道で落ち葉が道を隠し、恐怖感がある。左に折れる道は植林された山の作業道らしく広く歩きやすくなっていた。そこで左に折れ、しばらく行くと道がなくなり、急な下りになり坂を滑り落ちてしまった。元の道まで登り返すのが基本であるが、その体力もなくさらに左方面にトラバース(斜面を横方面に横断すること)した。さらに進むと沢があり、小屋らしきものが見えた。しかし、それは人が住んでいる小屋ではなくて集落で管理している水道タンクだった。そこで動けなくなり水だけを飲み発見されるまで6日間じっとしていた。発見の原因となった水道タンクは排水バブルが開けられていて空になっていた。そのために水道は止まっていた。たぶん誰かに知らせるためにしたことだと思われる。

本人は奥多摩病院に運ばれたが、凍傷にもならず、大した怪我もなく3日間の入院で家に戻った。いくつかの偶然が重なり助かることになったが、何度も登っている山でも、高くない山でも、危険は潜んでいます。道に迷うはずがないと思っても、地図とコンパス、携帯電話をもって行きましょう。自分を過信せず、少しでも変だなと思ったら地図で確認することです。滑落する前に!

(小峰 一郎)

～行ってきたあよ～

バードウォッチング 冬の野鳥探し

実施日 : 平成 28 年 2 月 17 日 (水)

集合場所・時刻 : JR 東青梅駅北口 午前 8 時 30 分

参加人員 : 17 名+ガイド畑さん他 5 名

4 班に分かれて 8 時 50 分に出発。9 時 5 分には鉄道公園を経て、風の子太陽の子広場に入る。ここは谷になっているので、雪が深くなかなか溶けないというが、2～3 日前から暖かい日が続いていたので、今は全くなし。モズ、ヤマガラ、ホオジロを見かける。目視してから双眼鏡で詳しく見ようとするのだが、慣れない私には、視野の中にキチンと入ってくれない。使いこなせない。抜けるような真っ青な空には、大きい鳥がつかいで悠々と羽搏いている。多分ノスリだと教えて貰う。アトリ、コゲラも見る。ハナミズキの枯枝に、直径 4～5 cm の可愛い蜂の巣がポツと、ブラ下がっていた。

池には、まるで泡立っているかの様に見える、ヤマアカガエルの卵がそこかしこにたくさん見え、少々気持ち悪い。目をこらすと池の底の辺には、親ガエルが細く長い手足を十二分に伸ばし、気持ちよさそうに動きまわっていた。オオタカが、ヒヨドリを追いかけていたが林の中に逃げこんで無事セーフ。50 cm 位のオオタカが、その半分以上もあるヒヨドリを襲うなんて一寸ビックリ。

10 時 42 分、少し傾斜があり、その先の上の方に、チヨロチヨロと湧水が流れている所があり、そこが霞川の源流だろうという。その周囲にはクレソンとネコノメソウが青々と茂り、春の気配を感じさせてくれた。また和らかい色のフキノトウが 2 本も顔を出していた。何かホロ苦い香りさえ感じられた。

途中大きなサワラの木に穴が 2 ケずつ、何か所も開けられている。あの 15 cm に満たないコゲラが、子育てのため、棲み処として造ったのだろう。

ちょうど、少し歩いた所で階段上に木が寝ているような小さい広場があったので 11 時 14 分、少し早いがそこで昼食。11 時 50 分まで。朝食も 5 時 15 分には食べているので大分お腹も空いた。オカズ、果物など色々な方面からまわってくる。これも楽し。午後から日が陰ってきたら、随分と寒く感じる様になった。13 時 30 分には、いつもより早めだが自分たちの見た鳥を確認しあって、それを反省会にする。風もなくお天気にも恵まれ、バードウォッチング、充分楽しませて頂いた。有難うございました。(奥多摩友の会会員 鈴木 三恵子)

雲取山をたずねる

「わぁ！あれが大岳と御前山！」

昨秋、10 月 1 日、爆弾低気圧が通り過ぎた後の晴天の下、いつもフーフー言いながら登る山々を眼下に眺めて、雲取山登頂の達成感でいっぱいになりました。

山歩きをする事などなかった私が、ふとしたきっかけで奥多摩観光協会のイベントに参加するようになって、気がつけば 8 年目になります。

四季折々の山の植物や鳥との出会いに魅せられて奥多摩に通い、「登らなくては見られないものがある」との言葉に励まされて、思い切って「登山」に挑戦するようになりました。

そしていよいよ百名山・雲取山へ。

鴨沢からの一日目は、あいにくの天気で視界が悪かったのですが、はじめて目にしたヒカリゴケや、原生林の林床を覆う、雨に濡れたコケの美しさは格別で、雲取山というと真っ先に思い出します。

不慣れなため不安だった雲取山荘は十分快適で、一緒に登ったガイドや会員の皆さんと、到着後にやってきた荒天に負けずに楽しい時間を過ごせました。

夜間に暴風雨をやり過ごした二日目はお天気に恵まれて、前述のように山頂から富士山をはじめ素晴らしい山並みを目にした時のうれしかったこと！

七ツ石山からの眺めも良く、右手に現れる富士山の姿を追いながらの下山も楽しいものでした。

木々の紅葉、ナナカマドやアズキナシなどの赤い実、フクオウソウやナギナタコウジュ、ミヤマタニソバ、トリカブト、キツリフネ、クサボタン、アキノキリンソウなどの花たち、そして花と共に葉も紅葉しはじめたタニソバの群生も心に残っています。

たくさんの出会いが待っている奥多摩の山や溪流を、これからも存分に楽しみたいと思います。

(奥多摩友の会会員 下代 まり子)

奥多摩樹木雑考

滴り落ちる春

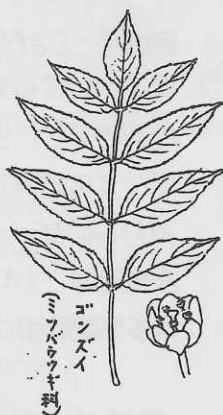
以前、豊かな自然に囲まれた日原の人々が、昔から現在までどのような生活を営んでこられたのか知りたく、奥多摩町郷土史研究家の岡部義重さん、奥多摩町観光ガイド仲間の岡崎学さんと、日原にお住いの古^{ふる}老、山崎信三さんをお訪ねしたことがあります。その時の日原の自然や文化についての多岐にわたるお話の中で、「春先、シラクチ(サルナシのこと?)のつるの切り口から出る汁は、12時間で1斗(8升)樽一杯にもなり、炭焼窯の粘土を練るのに使ったよ」と話されました。私は出た汁の量的な確かさはさておき、つるの切り口から滴り出る汁のきらめきを想像していました。日原といえば産物のひとつ「白簪」、その材料となるミズキは早春、枝の切り口からその名のとおりの水が滴り落ちますし、同じ現象は早春のゴンズイという木でもみられます。

そのため九州や四国ではショウベンノキとよぶ所があり、奥多摩でもそのように呼ぶことがあるそうです。

これらの木から滴り出る水は木が根から吸い上げたもので、特別な味はありませんが、早春にイタヤカエデの幹を傷をつけると、根や幹に含まれる糖を溶かした甘い樹液をだすことは古くから知られています。

カナダのサトウカエデは有名ですが、日本のイタヤカエデからも楓糖が作られたことがあります。ずっと以前に仲間数人と北海道白老(シラオイ)に、アイヌの萱野茂さん(アイヌ初の参議院議員、地元アイヌ民族資料館を設立、故人)をお訪ねしたときも、子どもの頃エソイタヤの幹に傷をつけ、傷口に中が空っぽのイタドリ^{イタドリ}の茎を取りつけて、翌朝茎にたまった汁が凍ってアイスクャンデーになっているのを食べるのが楽しみだったと話しておられました。

春はこのようなかたちでも、そのすがたを見せ始めるのですね。



(橋上 一彦)

奥多摩の野鳥

森の忍者フクロウ

今回はフクロウを取りあげてみました。フクロウ類の鳥は、現在日本では11種類が記録されています。主なものはフクロウ、コノハズク、リュウキュウコノハズク、オオコノハズク、アオバズク、トラフズク、シマフクロウ、コミミズクなど。

フクロウ:目は黒く顔は平たく灰褐色のハート形、羽角はない。ユーラシア大陸の温帯から亜熱帯にかけて広く棲息する。日本では九州以北の平地から山地の林に留鳥として棲息、繁殖する。近年は数を減らしている。

3月頃から鳴き始め「ウオーウオー」と聞こえる。

主にネズミ類を採食し、小鳥、爬虫類、昆虫なども採食する。

ところでみなさん方はフクロウという鳥にどのようなイメージをおもちでしょうか。鳥にめずらしく顔盤をもち目が前面に2つあり人間に似ていることから親しみをもっている人が多いようです。ただ夜行性であり、個体数も少ないのでバードウォッチャーでも目にする機会は少ないと思います。フクロウ類は餌となるネズミ類などをとらえるには夜でもよく見える事。餌となるネズミなどのかすかな気配も聞き取る必要があります。すなわち顔盤があり目が2つ前についている事によりピンポイントで餌のいるところを見ることが出来、かつ耳が左右少しずれているので音のする方向も確実にキャッチ出来る。

そして他の鳥にない羽をもっている事です。風切羽(飛ぶために重要な働きをする)にびっしりと毛が生えていて羽音がしないことです。このようにすばらしい特徴を備えているフクロウも雨の日や風の強い日には耳が使えないので餌を取ることが出来にくい事があります。このような時には昼間でも餌をとるため行動しますからフクロウを目にするチャンスでもあります。

最後にフクロウの無音の羽バタキのメカニズムを参考にして新幹線のパンダグラフの静音化に応用されている事をご紹介します。(畑 幸夫)



大澤新次 画

新緑の奥多摩山歩き

～イベント案内 4月から7月～

奥多摩観光協会では、春から初夏にかけての会員向けイベントを用意しております。「名人・達人観光ガイドの会」のガイドがご案内いたします。

希望される会員の方は、往復はがきに参加したいイベント名、会員番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、奥多摩観光協会までお送りください。(抽選の場合あり) 入会方法等詳しくは奥多摩町観光案内所まで、お問い合わせください。

- No.6 4月27日(水) 川苔山・奥多摩の名峰
どっしりとした風格のある山。四季折々楽しめる。2度、3度登りたくなる山
- No.7 5月19日(木) 自然散策③山のふるさと村
都立の自然あふれる公園です。花、鳥、獣今日はどんな出会いがあるのでしょうか?
- No.8 5月24,25日 東京で一番高い雲取山
新緑の日本百名山
- No.9 6月2日(木) 自然散策④水源の森「柳沢峠」
標高1500mを超える高原散策地「癒しの森」
- No.10 6月10日(金) 蕎麦粒山 初夏の山歩き
東京都と埼玉県の境にある奥深い神秘的な山
- No.11 6月21日(火) 奥多摩湖南岸「いこいの路」
都水道局の管理する平坦で歩きやすい道です。
- No.12 7月13日(水) 溪流釣り・バーベキュー
奥多摩で最初にできた大丹波国際マス釣り場で釣りとバーベキュー
- No.13 7月20日(水) 金袋山あれからのミズナラ
400年の歴史巨樹ミズナラは元気かい?

奥多摩クマ情報

(奥多摩ビジターセンターHPによる)

2015年は1月25日、2016年は1月9日に最初のツキノワグマ目撃情報がありました。年々早くなっています。

冬に完全に冬眠する動物は、ヤマネ、コウモリ類、両生類、爬虫類などがあります。冬眠とは、越冬中に体温や代謝が下がり昏睡状態になることを言います。最近までクマも冬眠するといわれていましたが、体温が極端に下がらないことから冬眠ではなく、冬ごもりというのがふつつだそうです。山菜やタケノコはクマの主食です。クマと出くわす事にならないように気をつけましょう。

奥多摩情報局

- 4月16日(土)・17日(日)
・山のふるさと村「春祭り」
・水と緑のふれあい館 春のミニコンサート
- 4月29日(金) 祝日
・奥多摩セラピーウオーク(むかし道)
・小丹波「小丹波のお囃子」熊野神社
- 5月1日 八十八夜 立春から88日目
農作業が忙しくなる時期
- 5月5日(木) 祝日 川井 八雲神社獅子舞
- 5月15日(日) 奥多摩町町長選挙
- 5月10日～16日 愛鳥週間

奥多摩の方言 これ何のこと?

- バカッコ
 - チチンパイパイ
- ヒント 奥多摩にいる鳥の名前です

施設案内

Beer Café VERTERE ビアカフェ バテレ
奥多摩に暮らす20代男性のやっている自家製ビールのお店です。食事だけでも、コーヒーだけでも、見学だけでも結構です。登山の帰りに、電車の待ち時間に、**おいしいビールをどうぞ**
営業時間 14:00～21:00(22:00) 木曜お休み
奥多摩駅徒歩30秒「天益」となり 0428-85-8590

表紙の水墨画 墨彩画家 向原常美

現在奥多摩町鳩ノ巣の「五風十雨庵」、天女久保のアトリエ「玄庵」にて異色作家として創作活動中。86年公募展第30回日本表現派展初入選以来、新人賞、奨励賞2、大賞受賞。個展60回。2000年鎌倉市「御寺京都泉涌寺派覚園寺」客殿襖絵制作奉納。俳句結社「河」銀河集同人。

作品展 せせらぎの里美術館 3/23日～5/29日
「奥多摩を創る」二人展 彫刻 清水孝啓

せせらぎの里美術館 0428(85)1109

次号発行予定：平成28年7月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会